

全ての学校における学校安全推進体制の 構築のための担当者研修等の取組

～神戸の防災教育～

神戸市教育委員会事務局学校教育課

防災教育について

活動

安全教育

安全管理

組織活動

学校安全

領域

生活安全
交通安全
災害安全

神戸の防災教育を中心に



平成25年度より**防災教育の実践研究推進校**園を指定し
神戸市に広く、その成果を発信してきた。

平成29年度:11校園【幼(1)・小(4)・中(4)・高(1)・特支(1)】

→研究の成果については、授業公開や研究発表会を通じて、広く
神戸市に情報発信する。

→年2回、実践研究推進校園連絡会を開き、各校の取組について、
情報交換や学校防災アドバイザーの指導助言の機会をもつ。



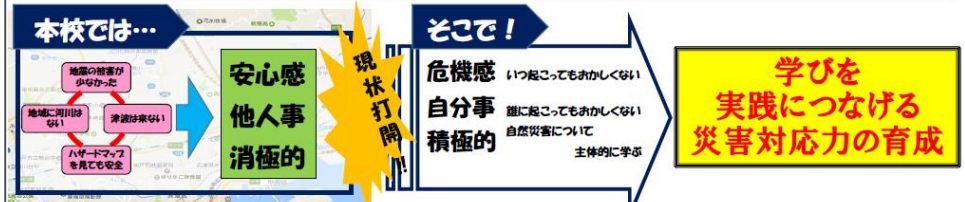
さらに防災教育の実践を広げる工夫

1. 実践研究推進校園の防災学習・防災訓練等の取組と防災教育カリキュラム（年間指導計画）を集約した**実践事例集**の作成。→神戸市全学校園に配付
2. 実践研究推進校園の取組を保護者・子供・地域、そして神戸のすべての人たちへ発信するため**パネル**を作成。（100cm×70cm）
→学校園・教育関連施設 また、地下街・銀行など人が集まる場所に掲示



防災教育に生かす理科授業

神戸市立星和台小学校



5年 流れる水のはたらき「水害」

科学的な見方や考え方を、実生活に生かすことができる子供を自覚して

理科教育の充実

防災教育の指導項目
災害が発生するメカニズムについての理解や、防災・減災に向けて技能を高めること

理科の授業
災害についての科学的な正しい知識を学ぶ

実践的な災害対応力の育成
防災・減災について主体的に手立てを考えていく

科学的な見方や考え方を、実生活に生かすことができる子供を自覚して

結論の導出
考察の展開
結果の処理
観察・実験の実施
検証計画の立案
予想・仮説の設定
問題の把握・設定
導入の事象

授業で扱った川は3年生の社会で学習した「明石川」と「住吉川」とした。1つの実験が終わることに神られた結果を、川の様子や地形の違い、増水時の様子などと照らし合わせ、2つの川について比較しながら学習を進めた。

中庭の流水実験場で実際に水を流したり、様々な水害の写真を見比べたりして出てきた気づきを疑問へと昇華させ、問題作りを行った。また「流速」「流量」「曲がり」の条件を変えながら、流水の三作用がどのように変化していくのか、その関係性を常に意識させた。

最後に、これまでに獲得した知識を生かして「川の特性を活かした街づくり」を行った。児童が使用した地図は実際の神戸の地図が付け替えられる前のものとし、水害をおさうとした先人の知恵に気付かせることもわらうとした。

6年 私たちの考える防災対策！

小学校の地学単元のまとめとして、自分たちが興味をもった災害のメカニズムをグループごとに調べ、その対応策を考え、発表した。発表では考えた対策をモデル実験として実施することでその有効性を証明した。また、質問タイムを設定し、対策への疑問やよりよい対策がないか話し合った。

導入で「ひとは」の出前授業を行った。丹波電やサイヤンミッドランド、神戸近郊で見つかった化石の紹介や観察などの本物に触れる体験をした。

観察の対象を学校の大地から地域の大地へと広げた。地域の大地を考える際にも人の児童が自ら公園などで拾った凝灰岩を学校に持ってきた。星和台の大地は、火山灰が水層で凝結してできた凝灰岩の地層があることが分かった。

流水のはたらきによる堆積実験、火山灰と砂の観察、岩石観察、ボリング資料の柱状図化と授業を兼ねてく中で、地層が流水のはたらきや火山の噴火物などが堆積して形成されること、星和台小学校の大地でも地層が形成されていることが理解できた。

凝灰岩の層が地表近くに見られることから、大地の変化に着目。地震による大地の隆起を予想し実験した。それでも明らかにない星和台の大地の形成は凝灰岩より六甲山の成り立ちとともに説明をいただいた。

指導力の向上 ～校内防災研修～

児童の思考力・表現力の育成

職員向け
理科授業の構成や基本的な考え方、実践の記録の共有

児童向け
良いノート記録の紹介・発表、保護者への情報発信

1. 避難リテラシー作り②「明日に生きる」指導案作成③校内危険箇所チェックを行った。

2. 六甲山の成り立ちについて兵庫県立大学森永教授より指導をいただいた。

3. 休み時間の火災発生を想定した避難訓練と逃げ遅れた児童の探索訓練を行った。

4. 理科通信は理科授業の構成や基本的な考え方、実践の記録を職員で共有できることを目的に発行した。また、理科への興味関心を高めることや良いノート記録の紹介、保護者への情報発信をねらいとし児童にも発行した。

保護者・地域(防災コミュニティ)との連携

防災コミュニティ、PTAと連携し、とんど祭りの際に防災訓練を毎年実施している。今年度も警備、消防、水道局と連携して、消防体験、いつもとちがった利用体験、煙体験などに保護者、地域の方も多数参加した。

講師を招き、震災・防災講話を毎年実施している。講話には希望のあった保護者、地域の方も参加した。今年度は石田裕之さんをお招き、「ぼうさいジャンケンポン」を念ひ、被災地支援とこれからの前向きな防災というテーマで講話を実施した。

伊川谷のくらしと防災・減災

～地域の防災・減災の担い手になる～

【高等教育・NPO機関との連携カリキュラムの提案】

神戸市立伊川谷中学校

実践のねらい

- 地域の特性と災害発生の原理を理解し、適切な行動と日頃の備えにより、被害を減らせることを知る。
- 伊川谷および他の地域でのくらしを防災・減災の視点で考察できるようにする。
- 地域の防災・減災の担い手になろうという心意気を持つようになる。

実践のねらい

- 伊川の河原からチャートが見つかることによって、伊川谷地域が太古の昔、海であったことを学んだ。
- 伊川の地形と地質について説明があり、激しい流れの中流域や緩やかな流れの源流のようすを知ることができた。
- 日本列島が地震列島であること、激しい流れの中流域や緩やかな流れの源流のようすを知ることができた。
- 日本列島が地震列島であること、激しい流れの中流域や緩やかな流れの源流のようすを知ることができた。
- 伊川谷地域の立体地図を見ることによって、伊川によって地形が作られていることがよくわかった。
- 台風の予想進路図の見方や台風によもたらされる風水害について知ることができた。
- 高潮について詳しく説明があり、津波と同様に危険であることに気付いた。
- 災害に対して、「備えて待つ」ことの大切さを教わった。

講演会 I

神戸親和女子大学 齊本 裕 教授
「日本列島の生い立ちと伊川谷の大地の成り立ち」

講演会 II

神戸市立工業高等専門学校 宇野 宏司 准教授
「川と水害のはなし 神戸の川・風水害について学ぶ」

防災・減災学習

●台風による風水害、河川の氾濫の仕組みを学んだ。
●「くらしの防災ガイド」を活用し、神戸市西区東部のハザードマップを見て、浸水想定区域や避難所を確認した。
●神戸の水害と治水について学んだ。
●中学校のすぐ近くに「調整池」があることや、神戸の河川が5つのグループに分けられることを学んだ。

シェイクアウト訓練

●予告なく行われる状況に、生徒は冷静に行動することができるようになった。
●どの教科の時間であっても、1分間の防御姿勢を速やかにとることができるようになった。
●今後は、屋外での活動時など、様々な状況の中で取り組んでいきたい。

実践の内容

伊川防災プロジェクト

社会科「身近な地域の調査」として実施

- 地域のハザードマップを活用して、災害時に必要な情報を明らかにする。
- 地域にある災害時に必要となる設備をフィールドワークに出て調査する。
- 地域の特色や課題についてクラスでまとめ、地域課題を考える。
- よりよい地域社会を築くための方策について考察する。

NPO法人 伊能社中

学校防災アドバイザーの派遣

大学教授・新聞社・区役所・消防署・危機管理室・気象台
人と防災未来センター(計7名)

- ・防災教育推進校園への指導助言
- ・校園内研修の講師
- ・防災教育担当者研修会の講師
- など



人と防災未来センター



社会見学...バス利用 震災メモリアルパーク



人と防災未来センターの他 東遊園地



その他の取組

歌「しあわせはこべるように」

～神戸の復興を願う歌～

1 地震にも負けない 強い心をもって
亡くなった方々のぶんも 毎日を大切に生きてゆこう
傷ついた神戸を もとの姿にもどそう
支えあう心と明日への 希望を胸に

※ $\left\{ \begin{array}{l} \text{響きわたれば私たちの歌} \\ \text{生まれ変わる神戸のまちに} \\ \text{届けたい わたしたちの歌} \end{array} \right.$ しあわせ運べるように

阪神・淡路大震災

- 地震の概要

- (1) 発生年月日

平成7年(1995年)1月17日(火)5時46分

- (2) 地震名 平成7年(1995年)兵庫県南部地震

- (3) 震央地名

淡路島(北緯34度36分, 東経135度02分)

- (4) 震源の深さ 16km

- (5) 規模 マグニチュード7.3



神戸の防災教育…転機となった震災

- 震災までの防災教育は、火災時の避難訓練が中心
- 震災後、神戸発「生きる力」を育む防災教育がスタート

神戸の防災教育の特長

- 副読本「しあわせ はこぼう」
- 防災教育カリキュラム(年間指導計画)・防災マニュアル
- 1. 17を中心に行われる追悼行事・防災訓練等
- 防災福祉コミュニティなどの地域団体や関係機関との連携
- 子供たちの地域行事・ボランティア活動への参加



防災教育担当者の位置づけ

- 神戸市全校園では、必ず1名の
防災教育担当者を位置付けている。

- 防災教育カリキュラム(年間指導計画)の推進
→副読本「しあわせ はこぼう」による学習
- 防災マニュアルの見直し
- 追悼行事・防災訓練の企画
- 地域関係者(防災福祉コミュニティ)と

学校園をつなぐ



神戸市：防災教育の3つの視点

① 震災体験から学んだ教訓を生かす

人間としての在り方・生き方

② 防災（被害を最小化） ⇔ 減災

自分の命は自分で守る

③ 思いの共有化

被災者の思いに寄り添う



1995.1.17.発災

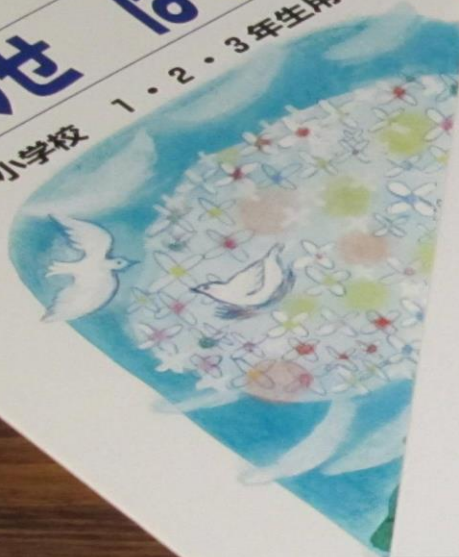
1995.11月発行



2013.3月改訂

しあわせ はこぼう

=小学校 1・2・3年生用=



しあわせ はこぼう

=小学校 4・5・6年生用=



神戸市教育委

幸せ 運ぼう

=中学校用=



神戸市教育委員会

緊急に作成されたわけ

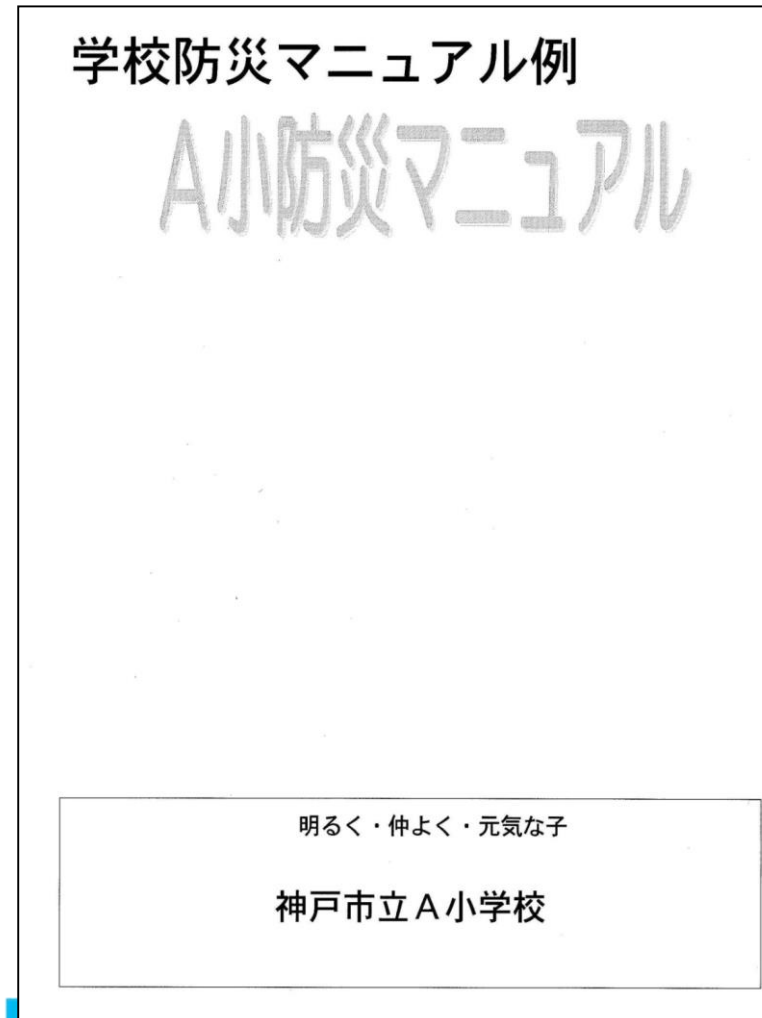
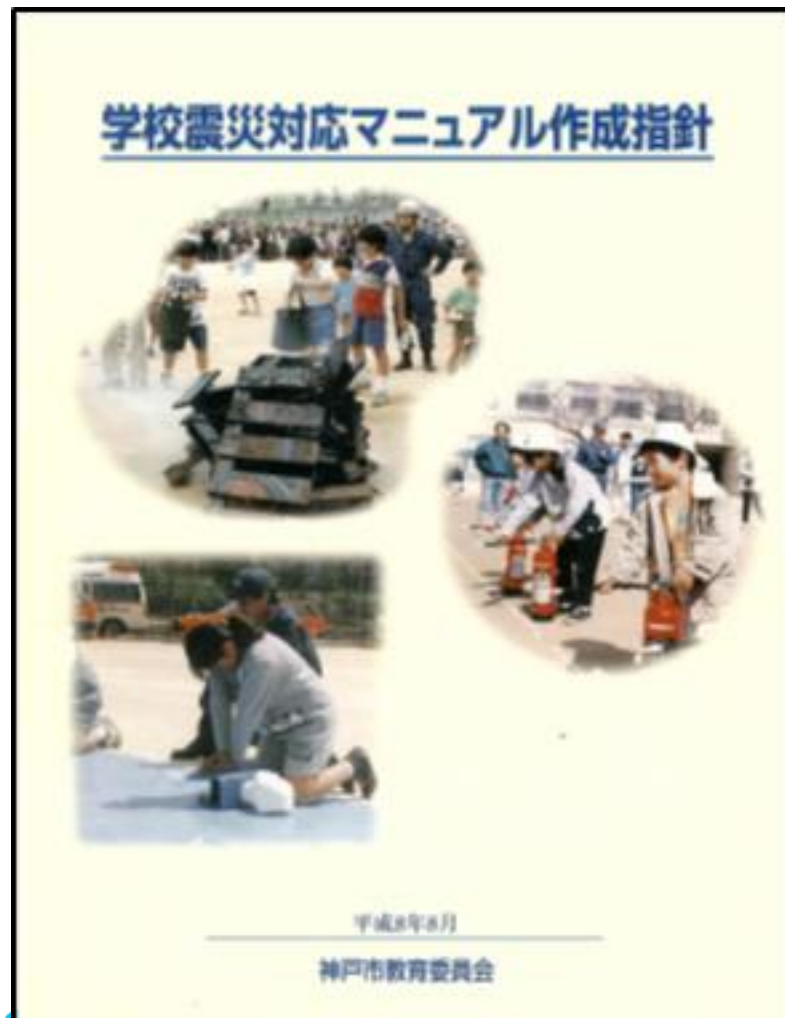
- **被害の大きかったところも、比較的小さかったところ**も共に学び合い、未来の神戸でたくましく生きていく礎とするために、震災の中で得た体験や教訓を教材化することにした。



月	教科等	1年生	教科等	2年生	教科等	3年生
4	学生	こうづばしっ子のやくそく がっこうたんけん	学生	こうづばしっ子のやくそく いのちをまもるものをさがしにいこう	学社	こうづばしっ子のやくそく (32)町のぼうさいたんけんたい
防災訓練（火災）						
5	学学	(29)ただしくつたえよう (6)はじめての避難訓練	学学	(29)ただしくつたえよう (6)はじめての避難訓練	学学	(29)ただしくつたえよう (6)はじめての避難訓練
引き渡し訓練、防災訓練（火災）						
防災学習重点期間①（水難事故に対する防災学習）						
6	学	(28)たのしい川こわい川	学	あつというまにすごいな流れ	学学社	(27)自ぜんがおこすさいがい 大雨の高津橋 神戸であった多いなさいがい
7	体学行	着衣水泳「泳ぐ」より「浮く」 (31)自分でできる手当て 交通安全教室	体学行	着衣水泳「泳ぐ」より「浮く」 (31)自分でできる手当て 交通安全教室	体学行	着衣水泳「泳ぐ」より「浮く」 (31)自分でできる手当て 交通安全教室

月	教科等	4年生	教科等	5年生	教科等	6年生
4	学道	こうづばしっ子のやくそく (8) 安全マップをつくろう	学	こうづばしっ子のやくそく	学	こうづばしっ子のやくそく
	防災訓練 (火災)					
5	学	避難訓練事前指導 (26) 学校にいるときに	学	避難訓練事前指導	学総	避難訓練事前指導 しゅん時の判断救った命 (あ)
	引き渡し訓練					
6	学	(27) 天気の変化と安全な行動				
	防災学習重点期間① (水難事故に対する防災学習)					
	学	水難事故防止に関する学習	学	水難事故防止に関する学習	学	水難事故防止に関する学習
7	学体	天気の変化と安全な行動 着衣泳	学体	兵庫県の気象と水害 着衣泳	体	着衣泳

神戸市教育委員会 事務局より



学校防衛計画

1. 防災管理組織・分担業務

1. 防災管理組織・分担業務

業務名	業務内容		担当者
管理責任者			校長
防災教育推進	<ul style="list-style-type: none">・ 避難訓練の計画と実施・ 防災教育のカリキュラム作成・見直し・ 防災マニュアルの作成・見直し		防災教育担当者 () 職員 ()
施設安全点検	・ 校舎内外の安全点検・整備 ・ 障害物の除去	教室、廊下、階段 非常口、非常扉	防災係 ()・職員 () 管理員 ()
		校舎回り、運動場、諸遊具	教員 () 管理員 ()
		火器使用施設（理科室、家庭科室、給食室）	教員 () 調理師 ()
設備安全点検	・ 消火器の機能点検と管理、 設備、燃料・薬品等の危険物の安全管理	消火設備	教員 ()
		危険物	教員 ()
		電気配線	管理員 ()
緊急時使用備品の管理	・ 緊急時使用の備品（ラジオ等、電池等）の管理と非常用物資の確保		教頭・教員 ()
重要文書等の管理	・ 重要文書、備品等の管理		教頭・事務職員 ()

2. 災害時の初動体制(組織と仕事)

2. 災害時の初動体制(組織と仕事)

本部	・避難命令の発令、避難場所の決定(避難住民の対応も含む)、消防通報、本部・諸係の設置	本部長	校長
		総務・指揮	教頭・防災教育担当者()
係名	業務内容	担当者	
避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を避難場所に誘導し、点呼する。 ・異常の有無と人数を報告する。 	各学級担任・専科	
児童	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所で児童を安全に保護する。 	職員()()()()	
巡視	<ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導後、廊下、階段、便所、教室等で逃げ遅れた児童の有無の確認をする。 	教員()()()()	
救護	<ul style="list-style-type: none"> ・救護設置場所に救急用具、薬品を持ち出し、救護にあたる。(設置場所は、運動場の南側。) 	教員()()()()	
非常持ち出し	<ul style="list-style-type: none"> ・耐火金庫に保管していない重要物品を安全な場所に持ち出す。 	事務職員() 調理師()()()()	
初期消火・復旧	<ul style="list-style-type: none"> ・当座の安全確保のために消火復旧作業にあたる。 ・手の空いた係から、随時応援に回る。 	教員()()()() 管理員()()()()	
<p>※児童の避難誘導終了後、各係は、所定の任務につく。係の仕事が困難な場合には、その旨を本部長に報告して指示を受ける。また、完了後も本部長に報告する。</p>			

②登下校時の基本的対応

児童の場合	教職員の場合
<p>地震発生</p> <p>↓</p>	<p>地震発生</p> <p>↓</p> <p>※震源地、津波情報確認</p>
<p>安全確保</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭部を保護し、身を低くする。 ・車道に出ない ・建物・ブロック塀・窓ガラス・海岸・川岸から離れる 	<p>安否確認 行動開始</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内にいる児童の確認 ・通学路上の児童の確認 ・避難場所の児童の確認
<p>近くの避難 所への移動</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揺れがおさまったら状況に応じて公園・学校・自宅等に避難 ・避難が困難な場合は、教職員・保護者・地域の人があるまで待機 	<p>通学路巡視 校内巡視 自宅確認</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域と連携し児童の所在確認
<p>状況に応じて自宅か学校へ移動</p> <p>※ 津波発生の場合、○○、●●、◎◎のうち一番近いところへ避難</p>	<p>児童保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校へ避難した児童の家庭への確実な引き渡し <p>※津波発生の場合、安全な場所へ誘導</p>

登下校時の巡回指導担当

学校担当・・・()、()

○○方面・・・()、()

△△方面・・・()、()

□□方面・・・()、()

災害発生時、避難所として使用する教室

1. 学校玄関の鍵は、校長、教頭、管理員が持っている。
2. 施設の管理については、校長の指示のもと、校内防災対策会を開き、協議する。
3. 避難所の開設は、区役所から連絡がなくとも緊急時にはこちらから届け、以後指示を受ける。
4. 避難所として開放する教室と、その優先順位

I 段階	II 段階 (高齢者)	III 段階	医療	乳児 (授乳)	本部・物資
・ 体育館	・ 室 ・ クラブルーム	・ 室 ・ 室 ・ 室 ・ 室 ・ 室 ・ 室 ・ 室	・ 保健室	・ プレイルーム ・ なかよし	・ 室 ・ 室 ・ 室 ・ 職員室
〇〇名	計〇〇名	各〇〇名		〇〇名	

※避難者の状況にあわせて変化する。

○備蓄物資 …〇〇室
○簡易トイレ …3基、△△に設置する

5. 避難所として開放しない教室等は全て施錠する。

地域防災拠点（避難所）としての体制

学校 本部	・避難所運営に携わる教職員の役割を明確化した運営マニュアルの作成・実践	本部長	校長
		運営委員	教頭・防災係（ ）・地域・行政

業務名	業務内容	担当者
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安否や動静を確認し、安全確認ができれば保護者引渡しの計画をする。 ・児童の登下校や学校での安全な生活について指導する。 	防災係（ ）、（ ）、（ ） 各担任・専科担任
児童	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の配当や授業計画など、応急的な教育方法を計画し、実践する。 	教員（ ）、（ ）、（ ）
施設復旧	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な学校運営のために、施設の点検と復旧の計画を立て、二次災害の防止に努める。 	教員（ ）、（ ）、（ ） 管理員（ ）、（ ）、（ ）
物資・備品管理	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活において必要な物資や備品の需給計画と管理を行う。 	教員（ ）、（ ）、（ ） 管理員（ ）、（ ）、（ ）
連絡調整	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時、避難してきた地域住民を開放する教室等に誘導する。 ・避難所の諸問題に対応するため、避難所の代表者や行政担当者との連絡・調整を行なう。 	教頭・防災係（ ）、（ ）、 （ ）

防災マニュアルはどこに・・・



防災マニュアル見直しの5つの視点

- 地域の特性に応じた避難場所，避難経路の設定
- 地域の特性に応じた避難訓練の計画・実施・評価
- 教職員の状況別役割分担の明確化
放課後，登下校中，校外学習中
- 避難所の開設準備や役割分担の明確化
子供の安全確保と平行して
- 子供の引渡し方法の明確化と保護者への周知
「震度5で学校へGO!」
保護者が帰宅困難者となり，来校できないことも



1.17追悼行事



さまざまな防災訓練



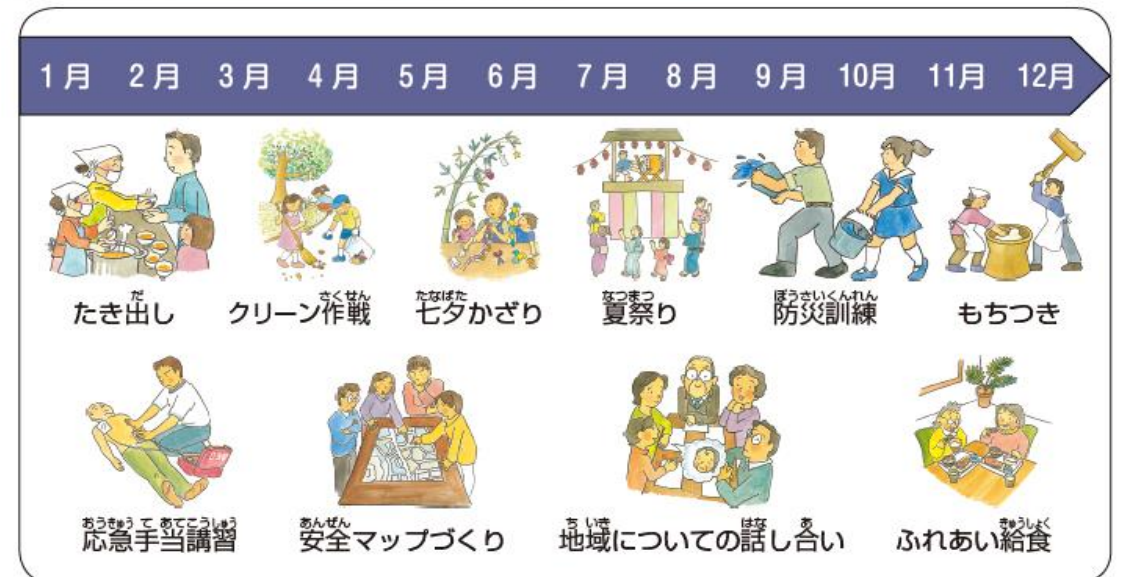
- 地域の**防災福祉コミュニティ**による防災教育は、「守られる立場」から「守る立場」への転換点として、「中学生を防災の担い手に！」との要望に応える意味合いをもっている。

ぼうさいふくし
防災福祉コミュニティに**かんけい**する**ひと**びと
※ふれあいのまちづくり協議会と同じ地域もあります



ぼうさいふくし
防災福祉コミュニティの**かつどう**例

※地域によって活動の内容はちがいます



地域行事や ボランティア活動へ参加



防災教育担当者研修会：年2回の防災教育担当者研修会

1回目…5月中旬に神戸市全校園の担当者が集まる。

内容→関係機関からの連絡(学校防災アドバイザー)

防災教育実践発表

教育委員会からの講話と情報交換

2回目…神戸市を4ブロックに分け、
推進校園の研究発表会に参加。



神戸市立星和台小学校の防災教育

自然災害が発生するメカニズムについての理解
や、防災・減災に向けて技能を高めること



理科学習からのアプローチ

理科学習からのアプローチ

1. 5年生 流れる水のはたらき ～水害～

2. 6年生 大地のつくりと変化 ～地震・火山～

1. 5年生 流れる水のはたらき

水害

Toga Gawa 2008-07-28 14:50:21

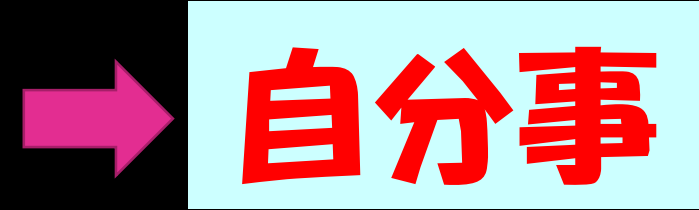
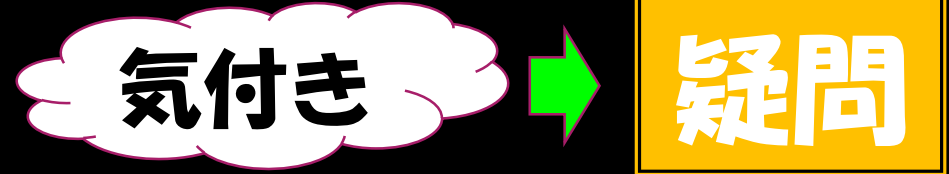


危機感

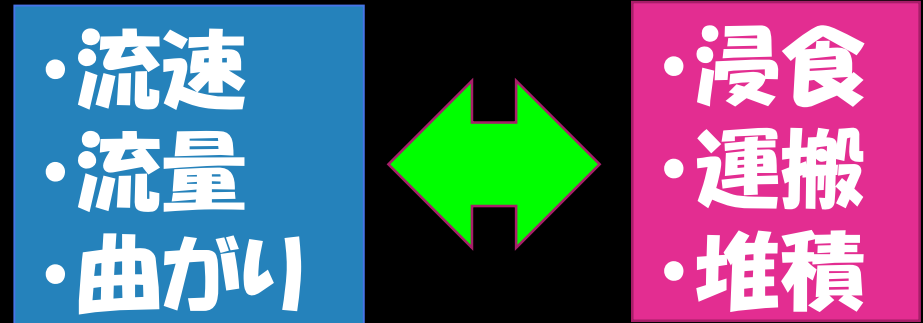
1. 5年生 流れる水のはたらき



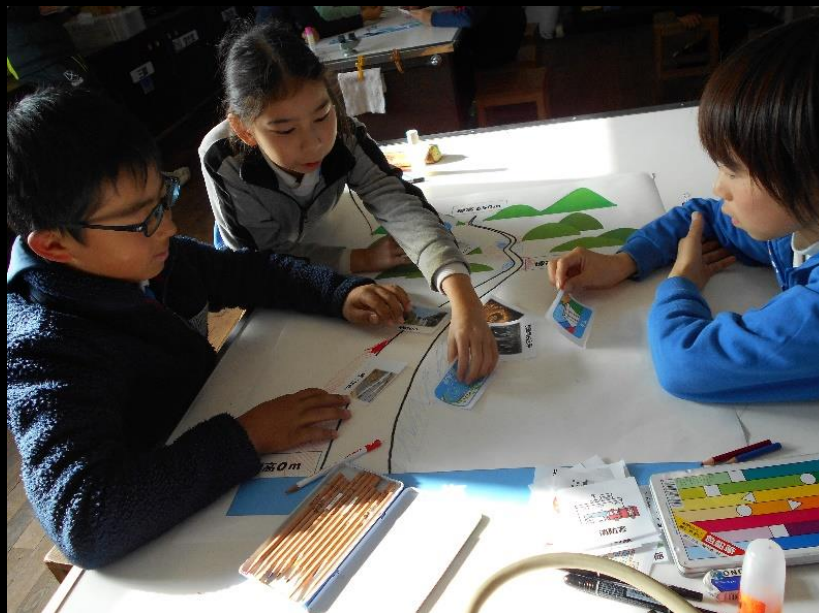
・問題作り



・条件制御



1. 5年生 流れる水のはたらき



積極的

自然災害について
主体的に学ぶ

命を守りたい

大切なものを守りたい

理科学習からのアプローチ

1. 5年生 流れる水のはたらき ～水害～

2. 6年生 大地のつくりと変化 ～地震・火山～

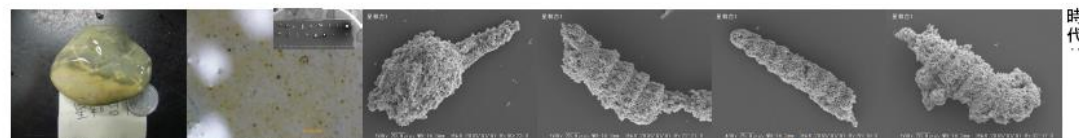
2. 6年生 大地のつくりと変化

児童にどのようにして大地に興味関心を抱かせるか

人と自然の博物館 出前授業 古谷裕博士

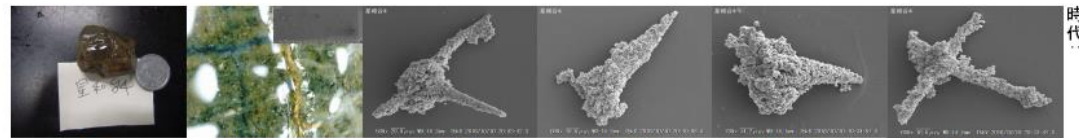


星和台小学校から発見された化石 時代は？



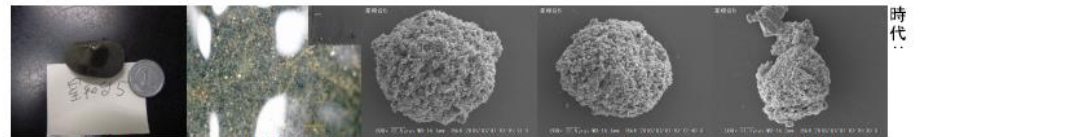
星和台1(チャート) 石の顕微鏡写真 (黒っぽい丸い粒が放射状化石) 放散虫 放散虫 放散虫 放散虫

時代



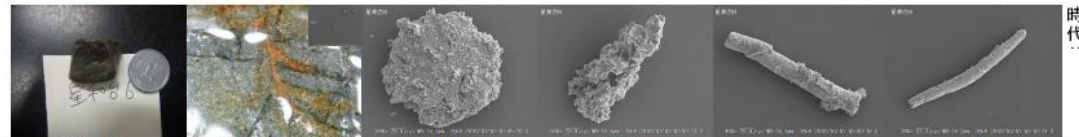
星和台4(チャート) 石の顕微鏡写真 (黒っぽい丸い粒が放射状化石) 放散虫 放散虫 放散虫 放散虫 海綿

時代



星和台5(ホルンフェルス) 石の顕微鏡写真 (黒っぽい丸い粒が放射状化石) 放散虫 放散虫 放散虫

時代

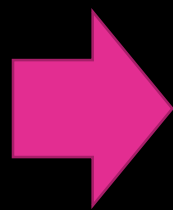


星和台6(チャート) 石の顕微鏡写真 (黒っぽい丸い粒が放射状化石) 放散虫 放散虫 海綿 海綿

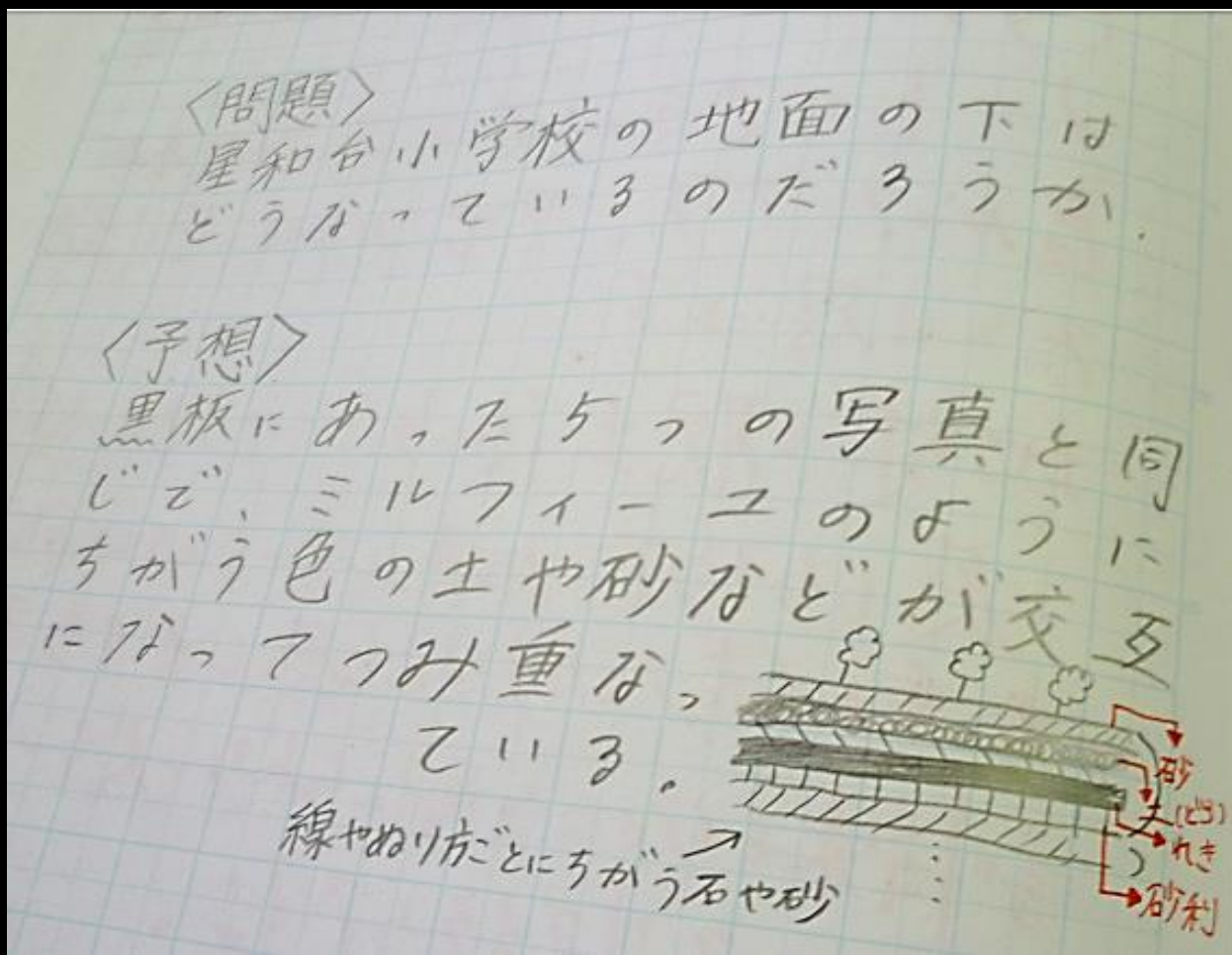
時代

2. 6年生 大地のつくりと変化

「実感を伴った理解」
「主体的な問題解決」

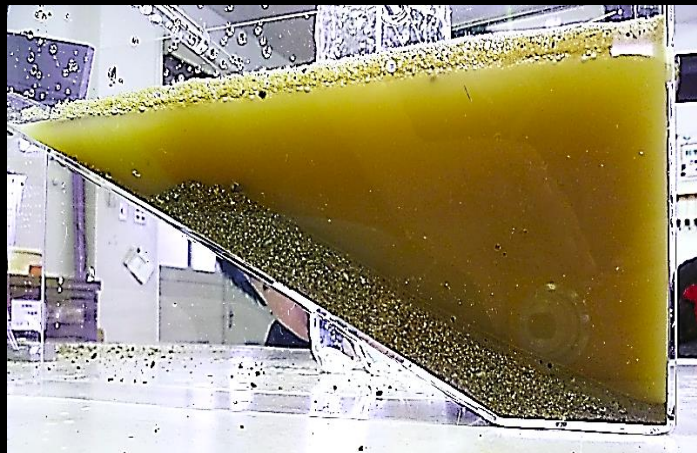


活動・実験の充実



2. 6年生 大地のつくりと変化

メカニズム



11/28(月)

問題
星和台小学校の地面の下は
どうなっているのだろうか

予想
水のはたらき (昔は湖があった)
六甲山の川が関係している
近くに火山はないのではなか

実験
ボーリング位置図

結果

盛土 No.1	盛土 No.2	盛土 No.3	盛土 No.4	盛土 No.5	盛土 No.6	盛土 No.7
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

①
②

考察
星和台小学校の地面の下は水のはたらき
火山灰から地層ができていて
理由は 水が砂を運んで(水のはたらき)から
凝灰質砂岩から火山灰と分かる。

まとめ
星和台小学校の地面の下は凝灰質岩
や盛土が見える。
盛土は造成で使われたもので
本来の土地は凝灰質岩の地層がある。

考察
盛土が一番上にある
風化凝灰質砂岩が
盛土の下にある。
風化凝灰質砂岩は
同一列のものではないで
存在している。
前の確信の実験と同じ様に
れき石が泥い重かっている

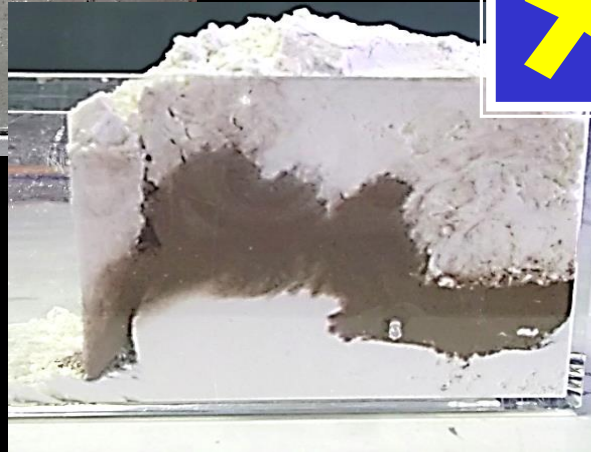
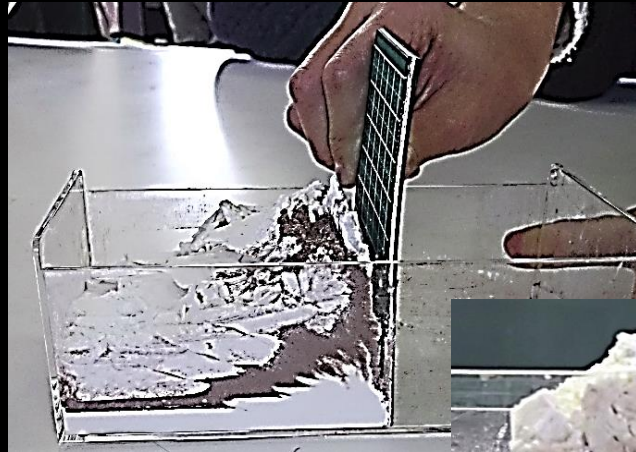
2. 6年生 大地のつくりと変化

学校の大地から地域の大地へ



2. 6年生 大地のつくりと変化

水底に堆積してできた地層がどうして現在の星和台の大地に見ることができるのか



地震による大地の変化

メカニズム

2. 6年生 大地のつくりと変化

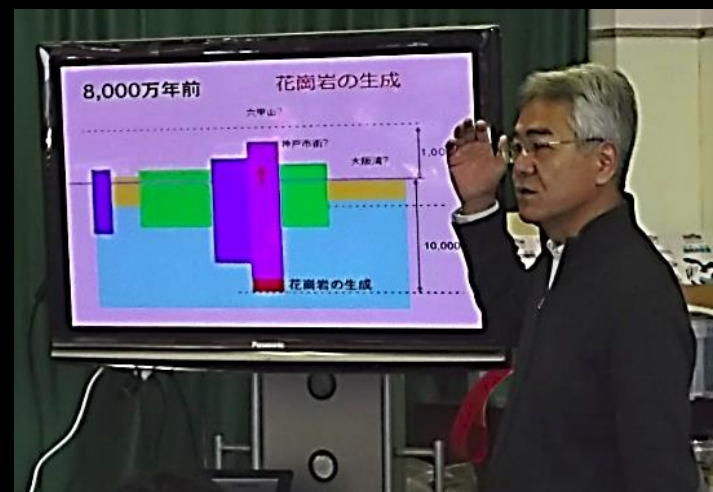
六甲山の成り立ち ~森永教授~

メカニズム



危機感

自分事



2. 6年生 大地のつくりと変化

防災・減災対策を考える



実践的な技能を高める

～成果1～

- 防災教育研究会, 実践事例集, パネル等による防災学習の新たな広がり
- 防災訓練(避難訓練を含む)の工夫
- 防災福祉コミュニティ(地域防災)との連携
- 阪神・淡路大震災に関わる具体的な取組の継続
- **防災教育のカリキュラム・マネジメント**



カリキュラム・マネジメントで防災教育をデザインする

■震災体験に基づく目標の設定

神戸市の防災教育の目標

- ◇ 人間としての在り方、生き方を考える
- ◇ 防災上必要な知識を身に付ける
- ◇ 防災上必要な技能を身に付ける

神戸市の防災教育の目標を踏まえ、地域（地域性・自然環境等）や子供、学校の実態（児童生徒数・施設等）に合った各学校の目標を設定する。



神戸新聞社 提供

■目標達成のために各教科等の学習を整理し、関連付ける

各校の防災教育の目標を達成させるために、教科等横断的な視点で各教科等の学習を整理し、関連付ける必要に応じて各教科等の単元の配列を替えたり、合科的な指導を進めたりする。



■家庭や地域のリソース（人的・物的資源）を活用する

防災教育に関しては家庭や地域と連携し、日頃から協体制を築いていることがとても大切である。カリキュラムを構想するときも、家庭や地域の人たちをつなぐ学習を計画することが必要である。

月	教科等	4年生	教科等	5年生	教科等	6年生
4	社	17 からのぼのバケツ				
5	学	22 学校にいるときも災害がおきる	学	22 学校にいるときも災害がおきる	学	22 学校にいるときも災害がおきる
	学	25 「災害発生」その時あなたはどうして身を守りますか？	学	25 「災害発生」その時あなたはどうして身を守りますか？	学	25 「災害発生」その時あなたはどうして身を守りますか？
6	行	避難訓練(火災)	行	避難訓練(火災)	行	避難訓練(火災)
	社	21 水漏れガスも電気もなかったら	道	27 天気の変化と安全な行動	道	27 天気の変化と安全な行動
7	社	18 復興を願って	体	着衣水泳	道	ぼくたちの夏
	体	着衣水泳			体	着衣水泳



防災教育カリキュラム

目標達成のために各教科等の学習を整理し、関連付ける 家庭や地域のリソース(人的・物的資源)を活用する



平成29年度

新しい学習指導要領が目指す

主体的・対話的で深い学びの実現 カリキュラム・マネジメントの確立

育成を目指す「資質・能力」の3つの柱

- 学びに向かう力・人間性等
どのように社会・世界と関わり
よりよい人生を送るか
- 知識・技能
何を理解しているか
何ができるか
- 思考力・判断力・表現力等
理解していること
できることをどう使うか

神戸市教育委員会

～成果2～

震災20年(平成26年度)

小学生防災教育発表会

全国中学生防災サミット in KOBE

震災21年(平成27年度)

神戸発「生きる力を育み 未来へつなぐ」

防災教育研究大会 全国大会

大会主題

震災から21年, 新たな一歩 ～つなごう 人・心・まち～



～課題～

- ・震災を体験した教員による幼児，児童，生徒への防災教育から震災を体験していない教員による幼児，児童，生徒への防災教育への移行。
- ・震災を教材として， 防災教育をつないでいくこと。
カリキュラムの実践・見直しが昨年度と同じになりがち。
- ・子供たちの命を守るため，自分に体験がなくとも躊躇しない。
マニュアルの遂行・臨機応変。



防災教育

1. 神戸の特色ある教育
2. 命を守る教育
3. 生きる力を育む教育



最悪を想像し、最善を創造する



ご清聴を感謝します

～神戸の夜景より～

